

10月24日(月)

## 主の恵み

聖書朗読 哀歌 3:19~26

私は、主の激しい怒りのむちを受けて苦しみにあった者。主は、私を連れ去り、光のない闇を歩ませ、御手をもって一日中、繰り返し私を攻められた。

哀歌 3:1~3

ある日曜日の朝の礼拝の後で、一人の少年が突然、母親に言いました。「ママ、僕、大きくなったら牧師になることにしたよ。」「良いんじゃない。」「母親は答えました。「でも、なんで牧師になることにしたの。」少年は答えました。「うーん、どっちみち日曜日には礼拝に行かなきゃならないだし、じっと座って聴いているより、立ち上がって怒鳴っている方が面白いんじゃないかなと思って。」

今日の聖書箇所を読んでみましょう。エレミヤが哀歌3章の初めの部分を書いた時、彼は立ち上がって、自分が置かれている状況についてわめき散らしているようでした。それは悲惨なものでした。肉と骨を冒され、囲いに入れられ青銅の足かせをはめられているようでした。エレミヤは神様のことを、彼を待ち伏せる熊や獅子に例えることすらしています。民全体の笑いものにされ、苦菜で満腹にされたように感じました。エレミヤによって、状況は辛すぎました。

しかし、やがて彼は静まって座り、耳を傾け始めます。何が聞こえたのでしょうか。今の状況は、あまりにも辛すぎて、神などいないように思えます。しかし、エレミヤは、神様は希望と愛と恵みをもたらしてくださるお方だということを思い出したのです。神様にできないことはありません。神様は私たちのたましいを朝ごとに新しくしてください。神様はいつもしみ深いお方です。今、たとえ辛い状況でも静まって主を待ちましょう。

讚美歌 312

祈り 恵み深い父なる神様、私たちが試練に遭っている時にも、あなたはいつもしみ深いお方であるということをお覚えさせてください。私たちが朝ごとにあなたの恵み、希望、愛で新しくしてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 サンアンジェロ  
ロン・ガズマン

## 今日の日

2022年10月24日~10月30日

翻訳 岡元 裕子

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

10月25日(火)

## 確 固 た る 信 仰

聖書朗読 ダニエル書 3:8~16

様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。

ヤコブ 1:2

信仰者であることは必ずしも容易いことではありません。確かに、信仰生活によって祝福が得られます。信仰生活は喜びを生みます。信仰生活は永遠です。信仰は声高らかな「はい。」をもたらします。

でも、正直に言えば、信仰によって困難にあうときもあります。忠実な信仰者も試練にあうのです。そのような試練の中にあって、もちろん私たちは即座の具体的な超自然的な救いのみわぎを求めます。そのような救いがなされない時もあります。

シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは思い違いをしていた訳ではありませんでした。彼らは、例の金の像を拝むことを拒めばどうということになるか、完全に理解していました。3人の若者たちは、たとえ自分たちが火の燃える炉に投げ込まれて死んでしまうことになったとしても、他の神々を拝むことはしないと誓いました(18節)。バビロン捕囚以前、バビロン軍がイスラエルになだれ込んできた時には、イスラエル人は命を落としたことがありました。今、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは、絶体絶命の状況にあっても、恐れず、ただ信仰だけで立っていました。こんな大変な状況でも、3人は動じませんでした。彼らは唯一人の真の神様により頼んでいたからです。

そして神様は救い出してくださいました。でも、この話の結末が違っていたとしても、3人の信仰が足りなかったということにはならないでしょう。神様のご臨在が及ばなかったということにはならないからです。信仰によってやはり高らかな「はい！」がもたらされるのです。

讚美歌 270

祈り 助け主、救い主である、わが岩、わが力なる神様、あなたの御前にのみひれ伏します。今日、困難にあっても、平安をお与えください。平安でなければ、勇気をお与えください。天にあっても、地の上でも下でも、あらゆる者が御前で膝かがめるイエス様のお名前によって祈ります。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 アビリーン  
カート・ニッカム

10月26日(水)

## 死 へ の 勝 利

聖書朗読 ホセア書 13:12~16

「死よ、おまえの勝利はどこにあるのか。死よ、おまえのとげはどこにあるのか。」

1コリント 15:54~55

聖書の中でホセア書13章ほど死について書かれている箇所はありません。神様は生から死への移行を、陽の光によって消し去られる朝もやや、煙突を通して消滅する煙にたとえられます。神様は、猛り狂う肉食の獅子や、大惨事を生む干ばつで、死のすさまじさを表されました。それから神様は死に向かって、まるで人であるかのように語りかけます。死はこんなことを言っています。「神様、あなたが病気を持ち込んだんじゃありませんか。心臓発作を起こして生命を終わらせたのはあなたでしょう。」神様は死にご自分の民を訓練することを許されました。

約800年後、パウロはホセア書のみことばを引用しています。ホセア書13章を“死の章”と呼ぶならば、第一コリント15章は“死の死の章”と言えるでしょう。今や死そのものが死んだのです。イエス様は十字架上で死に打ち勝たれました。ホセア書13章で死んだ者たちが皆立ち上がり、死の死を見つめています。

十字架の故に、これまで亡くなったすべての死者はよみがえらされます。獅子の餌食になった者も干ばつで死んだ者もまた生きるのです。イエス様のおかげで、生は死との最終決戦に勝利しました。死はもはや、がんや病気というとげを持っていません。

ホセア書13章とコリント人への第一の手紙には共通したテーマがあります。神様が死を支配されているということです。神様は十字架上で死を滅ぼしてくださいました。神様が死に打ち勝たれたので、私たちは明日に立ち向かうことができるのです。

讚美歌 291

祈り 親愛なる神様、イエス様の復活によってなしてくださったこと、私たちに死に対する勝利を与えてくださったことを感謝します。イエス様のお名前によって。アーメン。

オクラホマ州 エドモンド  
ハロルド・シャンク

10月27日(木)

## 私の仕事ではない

聖書朗読 ヨエル書 3:17~21

「復讐はわたしのもの。わたしが報復する。」主はそう言われます。

ローマ 12:19

「自分たちのしたことを後悔することになるぞ。仕返ししてやる。今に見てろ。痛い目に合うから。」このような思いが頭の中を巡る状況に陥ったことはありませんか。私があります。私たちはこのような事態にあって自分というものをどうとらえているのでしょうか。白い馬に乗り、悪者と不公平をすべての人の前であばく「報復の天使」か何かのつもりでしょうか。かもしれません。でも、ひとつ確かなことがあります。そういう思いで心の中がかき回されていたなら、頭の中はそのことについて他に何のことも考えられず、エネルギーを使い果たしてしまうかもしれないということです。でも、人間だもの、ですよ。

神様は暴虐と恥辱を耐え忍んできたユダの人々に言われました。「わたしは彼らの血の復讐をし、罰せずにはおかない。」でも、暴虐者にさばきをくだすみわざをなさるのは神様であって、ユダの人々ではありませんでした。(3:21)パウロがローマのクリスチャンたちに思い起こさせています。「復讐はわたしのもの。わたしが報復する。」主はそう言われます。(ローマ12:19)パウロはこう言って励ましてもいます。「悪に負けてはいけません。むしろ、善をもって悪に打ち勝ちなさい。」

(ローマ12:21)

「善をもって悪に打ち勝ちなさい。」というパウロの言葉を覚えていきましょう。至難の業ですが、誰かがやらなければなりません。この仕事は神様があなたと私にお命じになったものですから。

讃美歌 228

祈り 天のお父様、あなたがくださった御霊の実を見返すと、怒りや復讐はリストのどこにも見当たりません。私の自分本位のリストにあるだけです。私の自我リストにあるものを、あなたが私に期待されていることに従わせることができるように助けてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

オレゴン州 フィロマス  
ビル・マコーン

10月28日(金)

## 憐みを見失う

聖書朗読 ヨナ書 4:1~11

主はあなたに告げられた。人よ、何が良いことなのか、主があなたに何を求めておられるのかを。それは、ただ公正を行い、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神とともに歩むことではないか。  
ミカ 6:8

十二万人以上の失われた魂が神様のメッセージを受け入れ悔い改めた時、神様は喜ばれましたが、ヨナは怒りました。ヨナは、ニネベは神様のあわれみや赦しを受けるに値しないと確信していたのでしょうか。ヨナは、神様には自分にはないあわれみがあることを知っていました。「あなたが情け深くあわれみ深い神であり、怒るのに遅く、恵み豊かで、わざわざを思い直される方であることを知っていたからです。」(ヨナ4:2)

800年後、イエス様が語られた放蕩息子の話の中では、兄息子も怒っています。ここでも父親は大喜びしています。弟息子が悔い改めて帰ってきたからです。これらの二つの話は、憐みを見失ってしまった者のことを語っています。

兄弟の悔い改めを喜んで受けとめるのが難しいと感じたことはありませんか。「あなたは当然であるかのように怒るのか。」というヨナ書の主のみことばによって裁かれるかもしれません。私たちは他人(ひと)の心を判断することはできません。自分自身の心を見つめなければなりません。神様はご自分の子どもたちに何を求めておられるのでしょうか。怒りを捨て去ること。「互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。」

(エペソ4:32)心の底から悔い改めている人はだれも神様の赦しから漏れることはありません。憐みの心を忘れていませんか。

讃美歌 502

祈り 聖なるお父様、憐みの心が足りない私をおゆるしくください。人々への誠実な愛で満たしてください。彼らが悔い改めてあなたのみもとに帰る時、丸ごと受けとめてください。イエス様のように、もっと情け深くなれるように助けてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

コロラド州 プエブロ  
キャロル・ローズ

10月29日(土)

## 恐れに打ち勝つ信仰、ここに希望あり

聖書朗読 ミカ書 6章

私たちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死にます。  
ですから、生きるにしても、死ぬにしても、私たちは主のものです。

ローマ 14:8

ここ2・3年を通じて、人々は新型コロナ・ウィルスの世界的流行によって引き起こされた災厄に対して実に様々な反応を示してきました。私たちは、神様が世界を支配されているのだということを忘れてはなりません。キリストに従う者として、私たちはイエス様に頼るようにと、神様はすべてをご存じで、すべてをご覧になっているのだということを信じるようにと教えられています。信仰者としての私たちの役目は、全能の神を信じていることを示し、イエス様の福音を分かち合うためにできることをすることです。

毎日の散歩の途中で、庭に看板が立っている家のそばを通ります。看板にはこう書かれています。《恐れに打ち勝つ信仰、ここに希望あり》看板を見る度に、信仰があれば、明日はもっと良くなるという希望を自分が持っていることを信じ続けられるし、分かち合うことができるんだと思ひ起こされました。

私の希望と安心は、私の好きな聖句ミカ書6章8節にあります。この箇所を読むと、私たちが「公正を行い、誠実を愛し、へりくだって、神とともに歩む」ためにクリスチャンになったのだと思ひ出します。これこそ、多くの未知の事態が起きている現代を生き抜くために唱えるべきみことばであり鍵です。この世の物を頼みにしないで、主の愛と約束を信じましょう。主は、私たちが天の御国で想像し得るあらゆるものを遥かに超えた未来を約束してくださっています。

讃美歌 285

祈り 全能なる神様、日々、あなたが与えてくださる、また信仰によってきつと与えてくださると信ずる素晴らしい恵みを覚えます。今日、私の行いによってあなたに栄光が帰されますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

サウスカロライナ州 コロンビア  
マーク・ヤング

10月30日(日)

## 私たちの神様のような神はいない

聖書朗読 ミカ書 7:14~20

あなたのような神が、ほかにあるでしょうか。あなたは咎を除き、ご自分のゆずりである残りの者のために、背きを見過ごしてくださる神。いつまでも怒り続けることはありません。  
ミカ 7:18

ミカは、モーセがシナイ山上で律法を授けられた時、主がモーセに言われたみことばを引用しています。モーセは神様のことをもっと知りたいと切望していました。彼の願いに答えて、主はご自身をこう宣言されました。

「主、主は、あわれみ深く、情け深い神。怒るのに遅く、恵みとまことに富み、恵みを千代まで保ち、咎と背きと罪を許す。」

出エジプト記 34:6~7

これらのみことばは旧約聖書の中でよく引用され、聖書のほとんどすべての巻で繰り返されています。私たちも同じ主に仕えているのだと知ることは慰めであり、主は今でもあわれみと赦しの神様です。

御子イエス様を遣わされた時も、神様はモーセやミカが知っていた同じ神様でした。罪を赦し、涙をぬぐい、倒れた者を起こし、そして私たちの罪を取り去るために死んでくださいました。

簡単に言えば、私たちの神様のご神性は変わっていないのです。私たちが傷ついているときも、神様は変わらず「あわれみ深く、情け深い神」であられます。私たちが神様から離れて罪に捕らわれている時、それでも神様は私たちの罪を踏み付け、海の底深くに沈めてくださるお方です。神様は恵みと赦しに富んだ神です。

讃美歌 90

祈り モーセ、ミカ、そして私たちすべての主である神様、あなたの変わらぬあわれみと献身的愛ゆえに、あなたをほめたたえます。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 アビリン  
パット・アンドリュース